

平成 29 年度 第 2 回 ISO/IEC 国際標準化人材育成講座（通称ヤンプロ）
応募用紙（記入例）

以下の 1) 及び 2) について全てご記入の上、ご提出ください。

1) 応募者について

応募者氏名	(ふりがな：)
生年月日	19__年__月__日 (2018年1月16日現在 満__歳)
所属企業・団体名	
所属部署・役職名	
連絡先	勤務先住所： TEL： E-mail：
現在の担当職務	※概要（技術分野、事務・渉外・研究等の別、知財や標準・認証との関係など）が客観的に分かるように記載ください。後段の各欄についても、同様にご記入ください。
標準化／適合性評価に関する経験 (国際、フォーラム、業界 等)	例) ・ ISO TC281 (ファインバブル技術) 国内委員会委員：〇〇年～ ・ IEC TC100 (マルチメディアシステム) 国内委員会委員：〇〇年～ ・ ISO TC227 (ばね) WGxxx 国際エキスパート：△△年～ ・ ISO TC164 SC2 (延性試験) 関連試験方法開発：□□年～
自身の専門性に係る資格・教育歴・上記以外の経験 (知財管理等も含む)	例) ・ 日本規格協会主催の国際標準化研修の受講歴

<p>関与中の ISO/IEC の TC/SC (見込み可、複数記載可)</p>	<p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ISO TC22/SC19(Wheels) 国際エキスパート ・ ISO TC162 (ドア及び窓) 国内委員会委員 ・ JTC1 SC2 (符号化文字集合) 国際エキスパート予定 (**頃)
<p>将来の国際標準化関連活動の計画</p>	<p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自社で開発中の技術を国際標準にするため、開発を進めつつ国内工業団体を通じ、国際標準化へのアプローチを行う。 ・ 自社の技術を有効活用してビジネスを展開するため、保有技術をどのように標準化に結び付けるべきか、社内各部署と連携しその戦略を練る。
<p>本講座及びその後の活動を通じ自身が目指すべきだと考える人物像</p>	<p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際規格開発 WG に出席し日本からの提案をうまくリードできるような人物
<p>本講座の受講を希望する自己PR</p>	
<p>英語力(会話力) (TOEIC 点数、海外経験等、その能力を客観的に判断できるように記載願います)</p>	

次ページに上司の推薦の記載をお願いいたします。

*本様式でご提示を受けた個人情報は、「ISO/IEC 国際標準化人材育成講座」の事業目的のみに使用し、その他目的では使用いたしません。

